

がんの悩み  
「患者本人/患者家族/近親経験者/未経験者」  
比較調査

“近親経験者/未経験者編”

近親者にがん治療経験ある者(患者本人、患者家族は除く)  
および 近親者にがん治療経験ない者

平成22年9月17日

株式会社QLife(キューライフ)

## “近親経験者/未経験者編”

### <目次>

- ・結論の概要
- ・「悩みと相談状況の想像」編
- ・「がんになる確率予想」編

#### 【結論の概要】

1. 患者が悩む状態を「家族」はおおむね把握していた(別報告書)のに対して、「近親経験者」と「未経験者」の想像は、いずれも「患者」本人実態の1.5倍くらい内容が多岐にふくらんだ。すなわち、悩みの想像力においては「家族か否か」で一線が引かれることがわかった。
2. 「もし自分ががんになっても、誰にも相談をしない」と予想する人が2割程度。理由は、「周囲に気苦労・負担・心配をかけたくない」が圧倒的に多く、次いで「相談しても解決しない」「どうせ死ぬ/先は長くない」であった。
3. 男性の少なくとも20%が、「誰かに相談するつもりだったが、いざ自分ががんと診断されたら、誰にも相談できない/しない」ことになる可能性があり、その可能性は年代が上の方が高い。
4. 自身が生涯のうちがんにかかる確率の予想平均値は「40%」であった。最近、「2人に1人はがんにかかる」と言われることが多くなっているためだろうか、分布上は「50%」と考える人が突出して多い。ただし50%を超える確率で積極的覚悟をする人は、「近親経験者」で2割、「未経験者」で1割と少ない。この罹患確率予想値は、年代が高いほどむしろ数字が下がることがわかった(歳をとるほどがんに関しては楽観的になる)。
5. 自身の「5年内罹患確率」予想値は、「近親経験者」21%、「未経験者」17%であった。一方で、家族の「5年内罹患確率」予想値は、それぞれ、ちょうど自身罹患確率の5ポイント増しであった。
6. 「近親経験者」で2割、「未経験者」で1割の人が、がん相当の病気にかかった時を想定して誰かに相談をした経験を持つ。

## 【調査結果の詳細】（“近親経験者/未経験者 × 悩みと相談状況の想像”編）

### 1. もし、あなた自身が「がん」と診断されたら、どんな悩みが生じると想像しますか。（複数選択）

近親経験者と未経験者を対象に、「がん患者になった時の悩み」を予想できるものか否かを確認した。「患者本人」「患者の家族」に対して実施した質問（別報告書）と同じ選択肢から答えてもらった。

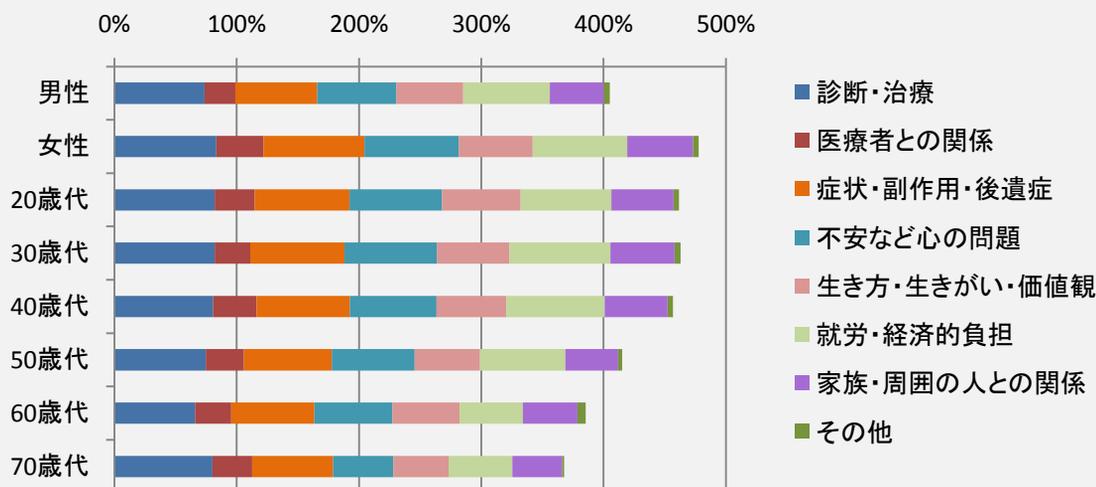
その結果、男性より女性の方が「予想する悩み」の内容が多岐にわたることがわかった。また、ほぼ全種類の悩み項目において、年齢が若い方が選択率が高い傾向にある。これらは、近親経験者でも未経験者でも同じ傾向であった。

▼近親経験者＝家族が「がん患者」になった経験はないが、ごく身近な知人友人に「がん患者」がいる、もしくはいた経験がある人

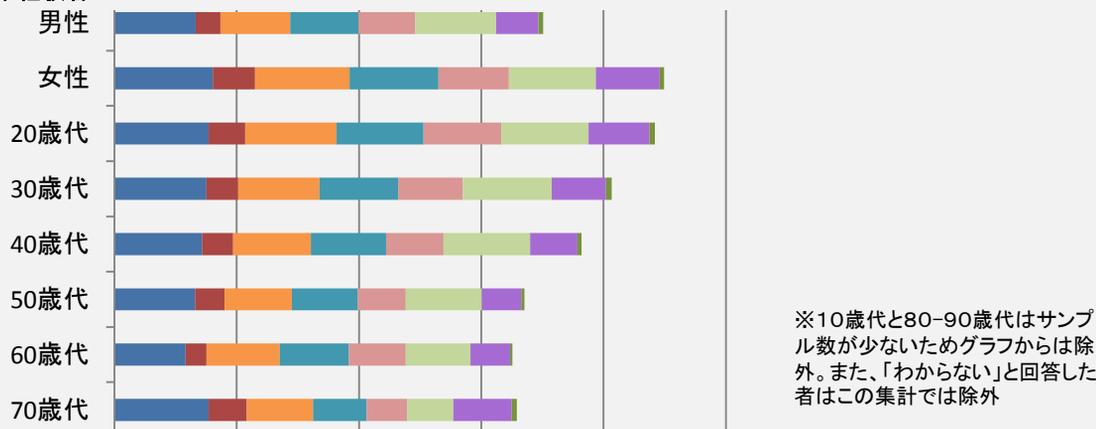
▼未経験者＝ 自身でも周囲にも、「がん患者」になった経験が一切ない人

1. 診断・治療	＝治療法選択、手術や検査への不安など	診療に関わること
2. 医療者との関係	＝医師や看護師とのコミュニケーションなど	
3. 症状・副作用・後遺症	＝症状や副作用、後遺症などの身体的苦痛	
4. 不安など心の問題	＝将来不安、死の意識、動揺・絶望感、抑うつなど	診療に関わらないこと
5. 生き方・生きがい・価値観	＝人生観、外見変化ストレス、自分らしさ変化など	
6. 就労・経済的負担	＝医療費、収入減、仕事への影響、蓄えなど	
7. 家族・周囲の人との関係	＝周囲の反応、孤立感、家族との関係変化など	
8. その他	＝その他	

#### ▼近親経験者



#### ▼未経験者

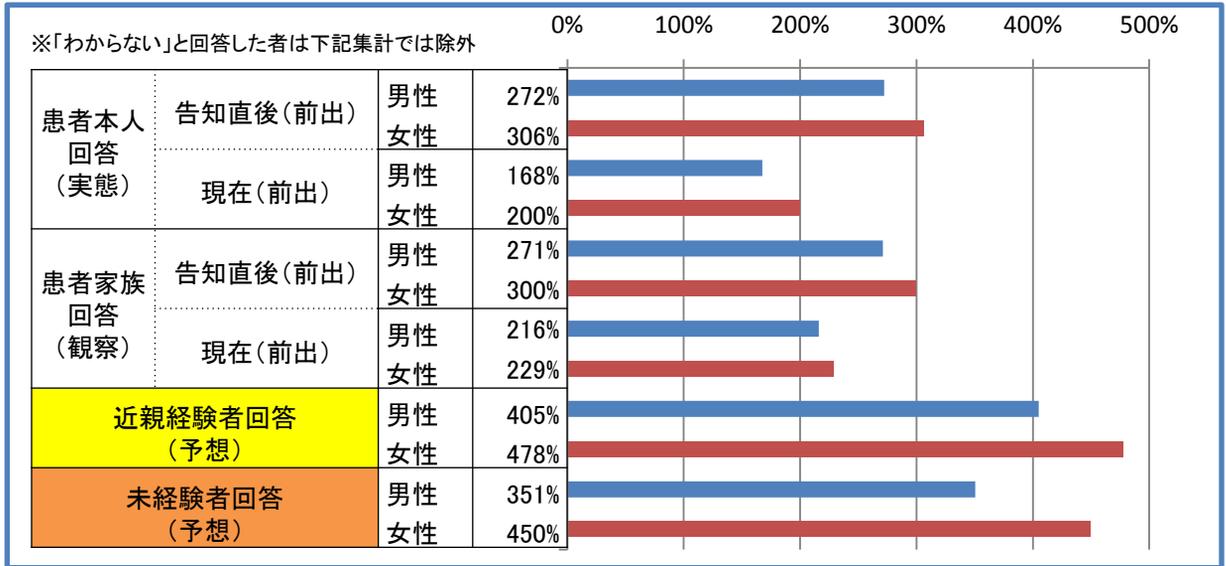


※10歳代と80-90歳代はサンプル数が少ないためグラフからは除外。また、「わからない」と回答した者はこの集計では除外

# 1. もし、あなた自身が「がん」と診断されたら、どんな悩みが生じると想像しますか。(複数選択) (つづき)

「患者本人」「家族」「近親経験者」「未経験者」の4グループ間における、悩み選択率の単純合計を比較した。

すると「家族」は「本人」に近く、「近親者」と「未経験者」は「本人」の1.5倍くらい内容が多岐にわたっている。つまり悩みの想像においては「家族か否か」で一線が引かれることがわかった。近親者で経験があったとしても、家族のように一線を踏み越えないで接している人は、かえって実態よりも想像が膨らんでいる。



次に、「患者本人の実態」と「近親経験者の予想」との間で、内容の比較をした。つまり「予想と現実のギャップ確認」である。

“患者本人編”で取り上げた結果のなかから、「がんと診断された直後の悩み」と「現在の悩み」の各選択率を単純合算したものと、近親経験者の「自分ががんになった時の悩み予想」とを比較した。(やや乱暴な比較方法ではあるが、後者は診断直後+治療後の両方の悩みを含むと解釈して、単純合算した。)

その結果、「その他」以外ではほぼ全てにおいて近い数値となった。つまり、“概ね予想ができていて”と言える。ただし個別にみると、男性の方が「治療に関わる悩み」を過小予想する傾向にある。特に「症状・副作用・後遺症」のギャップはとても大きい。「患者にならないと分からない悩み」と言えるかもしれない。反対に、「家族・周囲の人との関係」については、男女ともに過大予想している。病気になった自分が周囲にどのように受けとめられるかを不安に思っているが、実際に患者になった場合にはそれほどでもない、という様子だ。

※「わからない」と回答した者は下記集計では除外

		診断・治療	医療者との関係	症状・副作用・後遺症	不安など心の問題	生き方・生きがい・価値観	就労・経済的負担	家族・周囲の人との関係	その他	計	
患者本人回答	告知直後(前出)	男性	71%	19%	51%	45%	23%	35%	20%	7%	272%
		女性	73%	25%	51%	54%	27%	39%	30%	8%	306%
	現在(前出)	男性	16%	8%	48%	22%	21%	21%	6%	24%	168%
		女性	14%	13%	39%	35%	30%	34%	11%	24%	200%
告知直後と現在の合算	男性	87%	28%	99%	68%	45%	56%	26%	31%	440%	
	女性	87%	39%	90%	89%	57%	73%	41%	31%	506%	
近親経験者回答(予想)	男性	74%	25%	67%	65%	55%	71%	44%	5%	405%	
	女性	83%	39%	83%	77%	60%	77%	54%	5%	478%	
予想と現実ギャップ	男性	18%	11%	48%	4%	-19%	-22%	-40%	527%		
	女性	5%	-1%	8%	15%	-5%	-5%	-24%	524%		

## 2. もし、あなた自身が「がん」と診断されたら、抱く悩みのうち「一番大きいと想像されるもの」は何ですか。

前問と同一選択肢から、「最大の悩み」を予想してもらった。

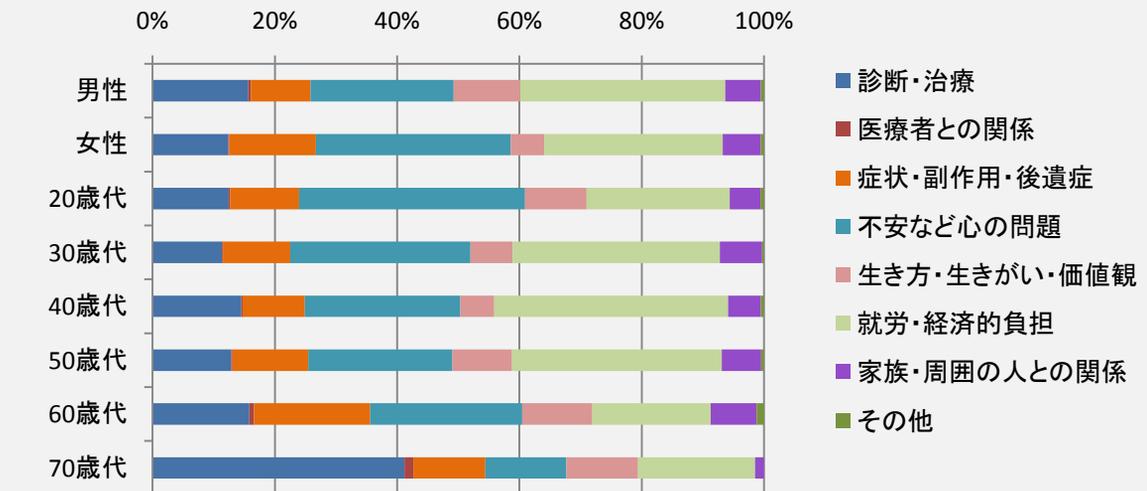
「近親経験者」「未経験者」でも、ほとんどの人が「診療に関わらない内容」(選択肢4~7)で、自分が一番悩むだろうと予想し、「診療に関わる内容」(選択肢1~3)という予想は26%に過ぎなかった。「不安など心の問題」と「就労・経済的負担」の二つが、ほぼどのセグメントでも“2大悩み”であるが、特に「未経験者」では「就労・経済的負担」を最も心配する人が男性37%・女性27%と、他を引き離しての最多である。

▼近親経験者＝家族が「がん患者」になった経験はないが、ごく身近な知人友人に「がん患者」がいる、もしくはいた経験がある人

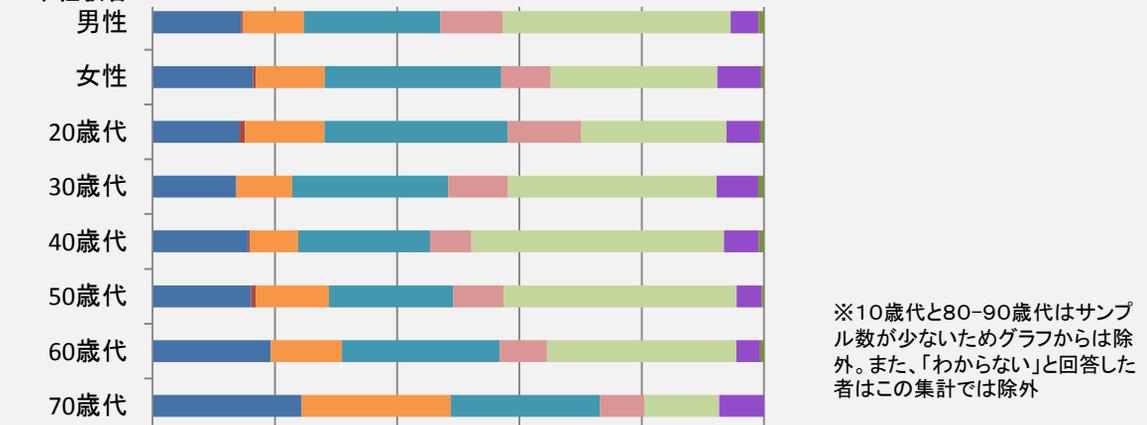
▼未経験者＝ 自身でも周囲にも、「がん患者」になった経験が一切ない人

1. 診断・治療	= 治療法選択、手術や検査への不安など	診療に関わる こと
2. 医療者との関係	= 医師や看護師とのコミュニケーションなど	
3. 症状・副作用・後遺症	= 症状や副作用、後遺症などの身体的苦痛	
4. 不安など心の問題	= 将来不安、死の意識、動揺・絶望感、抑うつなど	診療に関わ らないこと
5. 生き方・生きがい・価値観	= 人生観、外見変化ストレス、自分らしさ変化など	
6. 就労・経済的負担	= 医療費、収入減、仕事への影響、蓄えなど	
7. 家族・周囲の人との関係	= 周囲の反応、孤立感、家族との関係変化など	
8. その他	= その他	

### ▼近親経験者



### ▼未経験者



※10歳代と80-90歳代はサンプル数が少ないためグラフからは除外。また、「わからない」と回答した者はこの集計では除外

## 2. もし、あなた自身が「がん」と診断されたら、抱く悩みのうち「一番大きいと想像されるもの」は何ですか。 (つづき)

次に、実際の「患者本人」の悩み方と、「近親経験者」の回答との比較をする。つまり「予想と現実のギャップ確認」である。

“患者本人編”で取り上げた結果のなかから、「がんと診断された直後の悩み」と「現在の悩み」の各選択率を単純平均したものと、近親経験者の「自分ががんになった時の悩み予想」とを比較した。(やや乱暴な比較方法ではあるが、後者は診断直後+治療後の両方の悩みを含むと解釈して、単純合算した。)

その結果、「その他」以外では近い傾向となった。つまり、“概ね予想ができてい”と言える。ただし個別にみると、男性も女性も「診療に関わる悩み」を実際よりも過小に予想している。特に男性の「症状・副作用・後遺症」の悩みギャップは、前問の結果と同じく、とても大きい。「まさかこれで、こんなに悩むなんて」と多くの患者さんが意外に感じることになる。

反対に、「就労・経済的負担」や「家族・周囲の人との関係」については、実際よりも過大に予想される傾向が見える。

		診 断・ 治 療	医 療 者 と の 関 係	症 状 ・ 副 作 用 ・ 後 遺 症	不 安 な ど 心 の 問 題	生 き 方 ・ 生 き が い ・ 価 値 観	就 労 ・ 経 済 的 負 担	家 族 ・ 周 圍 の 人 と の 関 係	そ の 他	計		
※「わからない」と回答した者は下記集計では除外												
患者本人回答	告知直後(前出)	男性	36%	3%	19%	19%	4%	12%	3%	6%	100%	
		女性	28%	2%	16%	30%	4%	11%	5%	4%	100%	
	現在(前出)	男性	8%	2%	32%	13%	8%	12%	2%	23%	100%	
		女性	6%	5%	21%	16%	13%	13%	3%	22%	100%	
	告知直後と現在の平均		男性	22%	3%	25%	16%	6%	12%	3%	14%	100%
		女性	17%	3%	18%	23%	9%	12%	4%	13%	100%	
近親経験者回答	予想	男性	16%	0%	10%	23%	11%	34%	6%	1%	100%	
		女性	12%	0%	14%	32%	5%	29%	6%	1%	100%	
予想と現実ギャップ		男性	38%	NA	152%	-32%	-47%	-65%	-56%	NA		
		女性	43%	NA	31%	-29%	77%	-57%	-28%	NA		

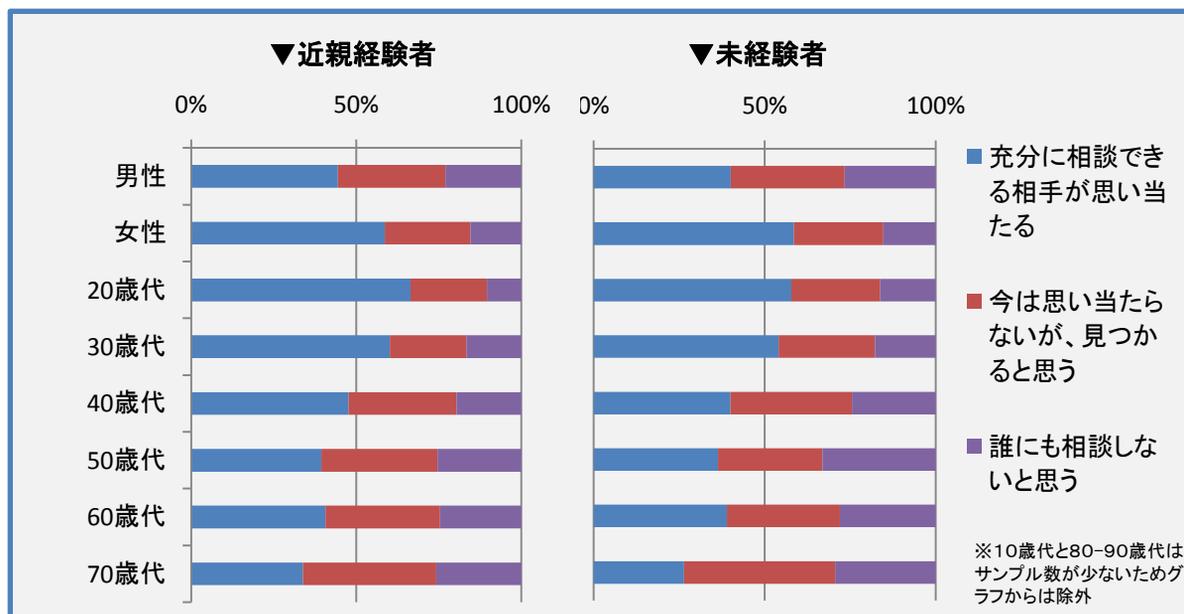
### 3. もし、あなた自身が「がん」と診断されたら、悩みを相談できる相手はいると思いますか。

悩みの相談相手がどの程度想定できているかを、確認した。

女性の方が男性よりも、また若い人ほど、「十分に相談できる相手」が思い当たる傾向にある。悩みが具体的に顕在していない段階であるが、「誰にも相談しない」と回答する人が2割程度いた。(その理由は、後出)

※「わからない」と回答した者は下記集計では除外

	近親経験者				未経験者			
	十分に相談できる相手が思い当たる	今は思い当たらないが、見つかると思う	誰にも相談しないと思う	計	十分に相談できる相手が思い当たる	今は思い当たらないが、見つかると思う	誰にも相談しないと思う	計
男性	44%	33%	23%	100%	40%	33%	27%	100%
女性	59%	26%	15%	100%	59%	26%	15%	100%
10歳代	70%	10%	20%	-	64%	29%	7%	-
20歳代	66%	23%	10%	100%	58%	26%	16%	100%
30歳代	60%	23%	17%	100%	54%	28%	18%	100%
40歳代	48%	33%	20%	100%	40%	35%	24%	100%
50歳代	39%	35%	25%	100%	36%	31%	33%	100%
60歳代	41%	35%	25%	100%	39%	33%	28%	100%
70歳代	34%	40%	26%	100%	26%	44%	29%	100%
80歳代	33%	0%	67%	100%	100%	0%	0%	100%
90歳代	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	51%	29%	19%	100%	48%	30%	22%	100%



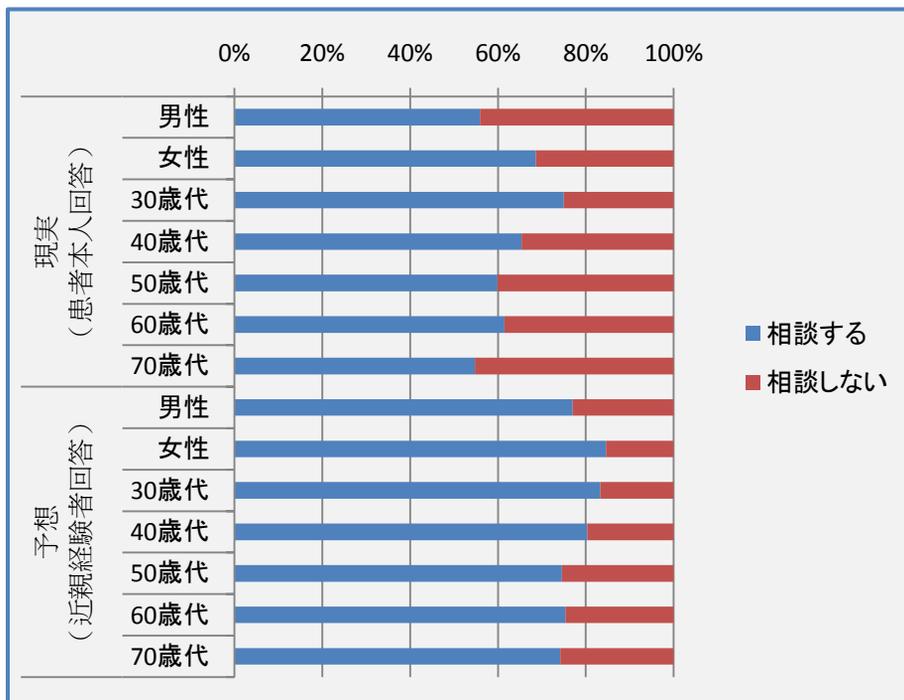
### 3. もし、あなた自身が「がん」と診断されたら、悩みを相談できる相手はいると思いますか。(つづき)

ここでも、予想と現実ギャップを見た。質問文および選択肢が異なるので単純比較はできないため、「予想と現実のギャップ」の広がり方のみを、各セグメント別でみた。

それによると、男性の方が、また年代が高い方が、ギャップの広がりが大きくなることがわかった。男性の少なくとも(77%-57%=) 20%は、「相談するつもりだったが、いざ実際に悩みができると、相談できない/しない」。

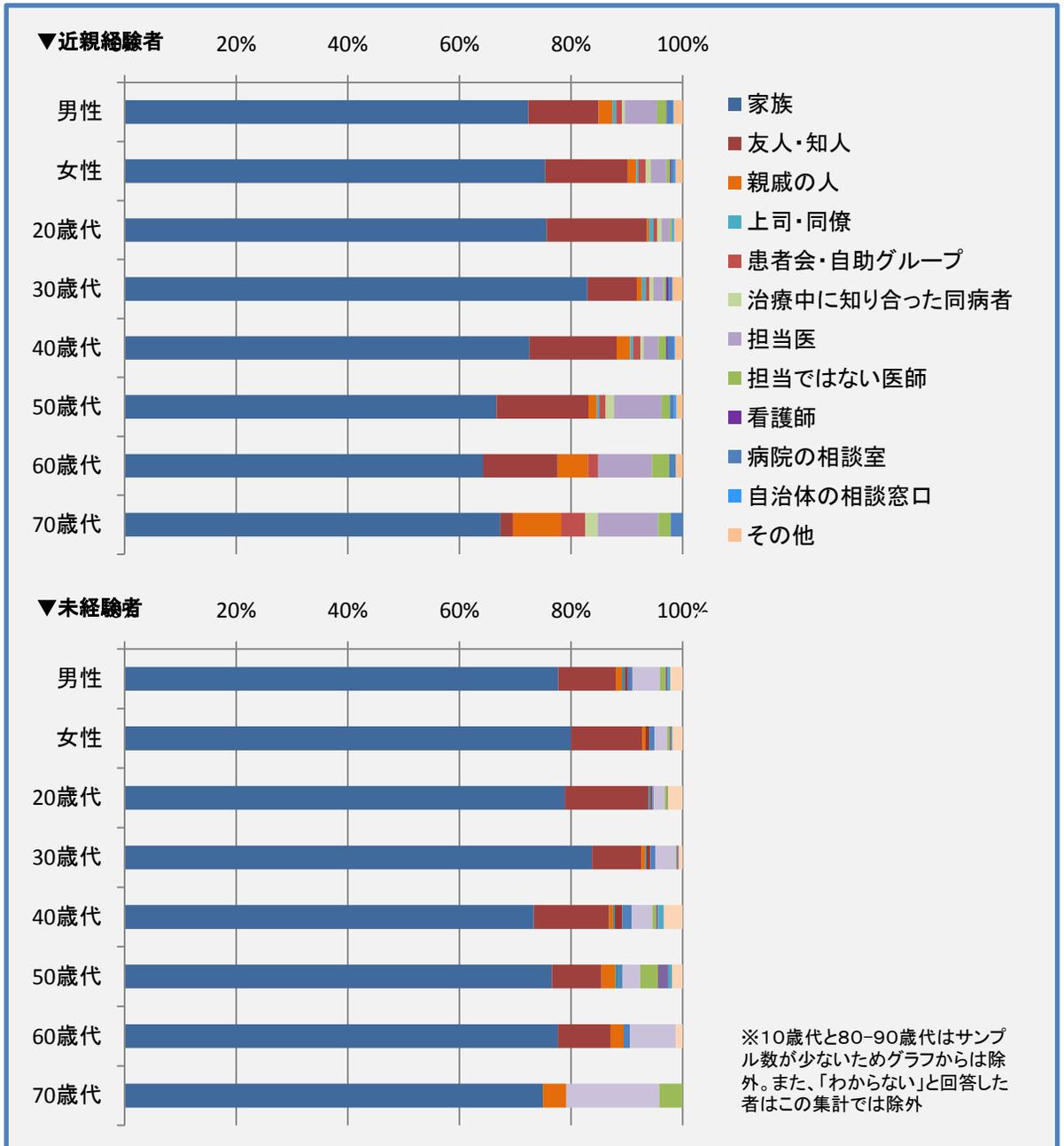
※「わからない」と回答した者は下記集計では除外

		相談する※	相談しない※										
現実 (患者本人回答)	男性	57%	45%	※異なる選択肢を次のように解釈して「相談する」「相談しない」に振り分け集計した。									
	女性	69%	32%										
	30歳代	75%	25%										
	40歳代	66%	35%										
	50歳代	61%	41%										
	60歳代	62%	39%										
	70歳代	55%	46%										
予想 (近親経験者回答)	男性	77%	23%	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>相談する</th> <th>相談しない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「患者本人回答」の場合</td> <td>「十分に相談」「まあまあ相談」「あまり相談しない」の合算</td> <td>「ほとんど相談しない」「全く誰にも相談しない」の合算</td> </tr> <tr> <td>「近親経験者回答」の場合</td> <td>「相談相手が思い当たる」「相談相手が見つかると思う」の合算</td> <td>「誰にも相談しないと思う」</td> </tr> </tbody> </table>		相談する	相談しない	「患者本人回答」の場合	「十分に相談」「まあまあ相談」「あまり相談しない」の合算	「ほとんど相談しない」「全く誰にも相談しない」の合算	「近親経験者回答」の場合	「相談相手が思い当たる」「相談相手が見つかると思う」の合算	「誰にも相談しないと思う」
		相談する	相談しない										
	「患者本人回答」の場合	「十分に相談」「まあまあ相談」「あまり相談しない」の合算	「ほとんど相談しない」「全く誰にも相談しない」の合算										
	「近親経験者回答」の場合	「相談相手が思い当たる」「相談相手が見つかると思う」の合算	「誰にも相談しないと思う」										
	女性	85%	15%										
	30歳代	83%	17%										
	40歳代	80%	20%										
50歳代	75%	25%											
60歳代	75%	25%											
70歳代	74%	26%											



**4. もし、あなた自身が「がん」と診断されたら、あなたが悩みを相談する相手は誰になると思いますか。最も可能性が高いものを選んでください。**

悩みの相談相手としては、近親経験者の74%、未経験者の79%が「家族」の可能性を一番に挙げる。次が「友人・知人」である。性・年代別で見ると、男性の方が、また年齢が高まるにつれて「担当医師」など医療者の存在を頼りにしようとする傾向が見られる。



## 5. (前々間で、「誰にも相談しないと思う」の回答者のみ)

### 誰にも相談しない理由は何ですか。

なぜ、悩みが具体的に顕在化する前の段階で、2割もの人が「誰にも相談しない」と考えてしまう(前出)ののだろう。その理由を聞いたところ、「周囲に気苦労・負担・心配をかけたくない」が圧倒的に多く、次いで「相談しても解決しない」「どうせ死ぬ/先は長くない」とする人が多かった。

以下に、文字数が多いもの60コメントを掲載する。

年代	性別	コメント(理由)
40歳代	女性	不治の病であること、子供がいないこと、闘病が大変なこと、これらを考えると何も治療をせず、そのまま天命を全うしたいと思うから。会社の隣席の男性の奥さんが40代だが乳癌の切除、骨への転移、闘病中で、いろいろと話をしてくれる。もっとも厳しいのはお金で、10年ほど前、奥さんが元気で共働きだった頃に組んだ家の変動金利のローンの支払い(4500万円の35年払い)に加え、子供の私学の月謝(5万)、そして3週間に1回の抗がん剤投与(5万円くらい)と支出が多くなった上に、奥さんが働けなくなりまた景気も悪くボーナスが減って収入が少ない。保険も一度癌にかかって手術をしているので、再発転移ではほとんどもらえないと嘆いていた。費用の面でも人に相談したくないから。
60歳代	男性	血液のデータが常人の半分以下で10数年前から白血病発生が疑われていて最初は3ヶ月後と一年間癌センターで検査、翌年は半年ごと、異常なく翌年から年一回の検査となったが今もって発病せず発病すればそのまま治療せず別世界に対して大いに興味があるのでそのまま心の中でここにこしながら旅立ちたいため。
60歳代	女性	叔父や親戚などで見てきているが、結局は医師任せ、周りは判断出来ない。私は脳梗塞系なので自分で対処しながら医師にかかっているが、家族には「もし癌になったら告知して欲しい、自分で決める。アルツハイマーの時は即入院を…」と遺言している。子供たちだけでは対処できないと思っている。
60歳代	男性	日常生活に手一杯で、それ以上の負担を掛けたくない。身体の癌には掛かっていないが、生きる事全体を見た場合、既に相当重篤な癌に掛かっていると見る事も出来、今更、身体的癌が見付ってもそれに対処して行く価値が残っているか？精神的生命力が割り振れるか甚だ危うい！
20歳代	女性	人に心配や迷惑をかけることが自分にとっては一番のストレスになるため。がんの告知を受けても自分以外の誰にも知られたくないです。もし自分に子供など守るべき家族がいるなら見解は変わってくると思いますが、いまの段階では独身ですし。
40歳代	女性	簡単に治るのなら相談するだろうが、下手に相談すると両親の気苦労を考えると共倒れとなる可能性がある。生きることを諦める気はないが、この心臓が止まるまで普段と変わらぬ自分を貫くことが理想だ。
50歳代	女性	かなり心は揺れ動いて、家族には迷惑かれるのだが、元から自分で解決するタイプで、ガンは他人が解決できるものではなく自分が病氣と向き合ってどう生きるべきかを考えさせる試練の時と思っている。
50歳代	男性	他人は信用できない どうせ他人事 事故で死に損なった経験があるが、担当医(脳神経外科医)に感謝はしていない事はないが、何でもっと人間らしいケアができない人物なのかが、多いに疑問だから。
50歳代	男性	相談しても解決策があるとは限らない。それに治療費の高さに納得できない。大多数の医師の生活向上の為に莫大な医療費は払いたくないし、がん治療の100%完治になった暁には又考える。
20歳代	女性	がんの経験者は身近にいないし(経験者の祖母はすでに故人)、未経験者に相談してもあまり有用なアドバイスは得られないと思う。それなら自分で本やネットで調べるのを選ぶ。
40歳代	女性	がんであれば、先があまりないと思うので、家族それぞれの将来のほうが大切であり、私の病氣のために、何かをあきらめることはさせたくないため。心配はかけさせたくない。
60歳代	男性	自分の内面は自分自身しか理解できない従って信頼できるプロフェッショナルにで会わない限り、周囲の近親者には不安を与えたくないで相談はしない。
40歳代	女性	父母も既に他界していますし、家は親戚一同癌家系で最高寿命68歳なので、相談された経験が沢山あるので自分は極力相談しないで頑張りたいと思います。
30歳代	女性	現実的なお金のことになるので、話した相手の心理や現状などで、その相手との距離ができるのは望まない。し、同情的や気休めの話をしたくはないから。
70歳代	男性	自分のことは、自分が一番良く判っている。他人に相談しても、おためごかしの返事が返ってくるばかり。お知恵は借りるとしても、判断は自分でする。
50歳代	女性	今の情報の中で、知りたい事は調べられるし、相談しても、自分は心の負担が軽くなるかもしれないけれど、その分相手に負担をかけてしまうので。

## 5. (前々間で、「誰にも相談しないと思う」の回答者のみ)

### 誰にも相談しない理由は何ですか。(つづき)

40歳代	女性	信じられるのは、結局「自分自身」でしかない。医療方針等々を提示された際に、決定するのは自分であり、他人に委ねることは出来ない。
30歳代	女性	相談された人ができることは、世間一般のアドバイスにとどまるだろうし、第一、相談された人の心の負担も考えないといけません。
40歳代	女性	今現在、相談できる人がいない。もし居たとしても相談することによって迷惑をかけたり、精神的・経済的に負担を負わせたくないから。
40歳代	女性	相談できると思える人物が思い当たらないし、家族、友人含めて 相談されても戸惑うのではないかと思う。実際自分がそうだったから。
50歳代	女性	どんな病気の悩みも自分にしか分からないし、相談して理解してもらえない時は更に傷つき、相手をも傷つけてしまいそうだから。
20歳代	女性	相談してもガンが治るわけではないから。それなら、相談して変に気をつかわれるより、相談せず、自然に生活をしていきたい。
60歳代	男性	不安感は、自分自身の心の問題、自分で心の有り様を見つけなければ解決しない。他人ではどうしようもない問題だと思う。
30歳代	女性	かわいそうという同情等をされたくないため。また、健康な人と自分を比べてしまい、さらに落ち込みそうな気がするため。
50歳代	男性	もしかしたら、死ぬかもしれないし治ったとしても、医療費が大きかったらとも返せないの、相手に迷惑が掛かるから。
40歳代	男性	どうせ死ぬから。それに、哀れみ・蔑みの目で見られるだろうし、そうされると、人生の敗者の気分がすると思うから。
30歳代	男性	自分の死を受け入れるのは自分自身で、相談したからといって解決しない。そして、悩みながら死んでいくのだと思う。
70歳代	男性	相談しても所詮詮休めで、医師に全てを委ねるしかない。最後はホスピスで、好きな音楽を聴きながら一生を終えたい。
40歳代	女性	治療法等でわからないことはネットででも調べるが、精神的な事は本人でないとどうしようもないだろうと思うから。
60歳代	女性	過去に病気をした経験から、結局は病気は本人でないとわからないし、自身が病気と向き合うものだったから。
40歳代	女性	以前から難病にかかって入院を繰り返していますが、誰かに相談しても根本的な解決にはならないと思うから。
40歳代	女性	一番経済的なことが問題だが年老いた母しかいないので相談できない。他人に相談して解決できることではない。
30歳代	男性	自分でなんとかなる限り、自分で何とかするだろうし、なんとかならなかつたら、自分はもうそれまでだと思う。
40歳代	男性	自分の事で他人に不安を与えたくない。たとえ自分が死んでも、家族にも友人にも、誰にも泣いてほしくない。
30歳代	女性	周囲の人に心配をかけたくないから。結局、最終的には自分の気持ちの問題で自分で何とかするしかないから。
60歳代	女性	最善を尽くしてその結果が出ると思う。生命は神様にお任せするしかないと思うのでじたばたしない。
30歳代	男性	親・家族には心配をかけたくないし、相談できるような親友を遠くから呼び寄せるわけにもいかない。
50歳代	男性	一般的な相談はするかもしれないが、心の問題煮までは入らないと思う。これは自分だけの問題。
30歳代	女性	親や家族にはには心配かけたくないし、知り合いはそんなに心を打ち明けるほど信用していないから
40歳代	女性	自分の後始末を自分でして、それをすべて家族に話して終われば、後必要なことは無いと思う。
20歳代	女性	他人に癌だということを使ってもらったり今までと異なる接し方をしてもらいたくないから。
30歳代	女性	保険でお金を賄えられるほどの金額を掛けていないし、貯蓄もない・お金の事は相談しにくい。
20歳代	女性	私自身そういうことを人に相談することが嫌だから、癌になってもそれは変わらないと思う。
70歳代	男性	自分で処理する。自分のことは自分でする。日本人は余りにも他人を頼りすぎるきらいがある。
30歳代	女性	知られたくないから。話すことにより、人間関係や対応が変わってくるのではないかと不安。
30歳代	女性	哀れまれるのが嫌だし、結局のところ本人にしか分からないし全てを自分自身で決断したい。
60歳代	男性	医師、妻には相談するがそれ以外は他人事のように聞き流されるだけのような気がするから。
20歳代	男性	言うとしてとめんどろなことになると思うし、やっぱり、まわりに迷惑をかけたくないから。
30歳代	女性	一緒に暮らしている家族が一人しかいないから。話しても助けてもらえると思わないから。
60歳代	女性	家族は101歳の母親しかいないし、親戚とも疎遠だし、友人には相談したくないからです
40歳代	男性	はっきりとした答えのないものだと思うので相談するとよけいに悩んでしまいそうだから
60歳代	男性	相談しても変わらない最低所得者になったものに医療もない生活の継続維持もできない。
50歳代	男性	そこまで話せる友人もいないし、家族には希望を持たせたいとなると、誰にも話せない
30歳代	女性	経済的理由は、誰かに相談して簡単に軽減されるモノではない事は認識しているため。
60歳代	男性	相談される方が大変だと思うし、したところで最後は自分で耐えていくしかないから。
60歳代	男性	相談しても何も変わらないと思う、相手に余計な不安やストレスを与えてしまうから。
40歳代	女性	もともと、人に相談しない性格なので。相談した相手に心配をかけるのが嫌なので。
70歳代	男性	金銭的なものであり、他に相談は難しく自力でやって行くしか無いと思っています。
60歳代	男性	自分の事で周囲に余分な心配を掛けたく無いし、自分のブザマな姿を見せたくない。
60歳代	男性	相談相手が思いつかない、また、家族は年老いた親だけなので、知らせたくない。

## 【調査結果の詳細】（“近親経験者/未経験者 x がんになる確率予想”編）

### 1. 「あなた自身」が「生涯」において、また「あなた自身」「あなたの家族」が“あと5年以内”において、「がん」にかかる確率はどの程度だと思いますか。（10%刻みから選択）

「がん患者」でも「がん患者の家族」でもない人が、「がんに対する当事者意識がどの程度あるのか」を、確認するために、10%刻みで罹患確率予想をしてもらった。

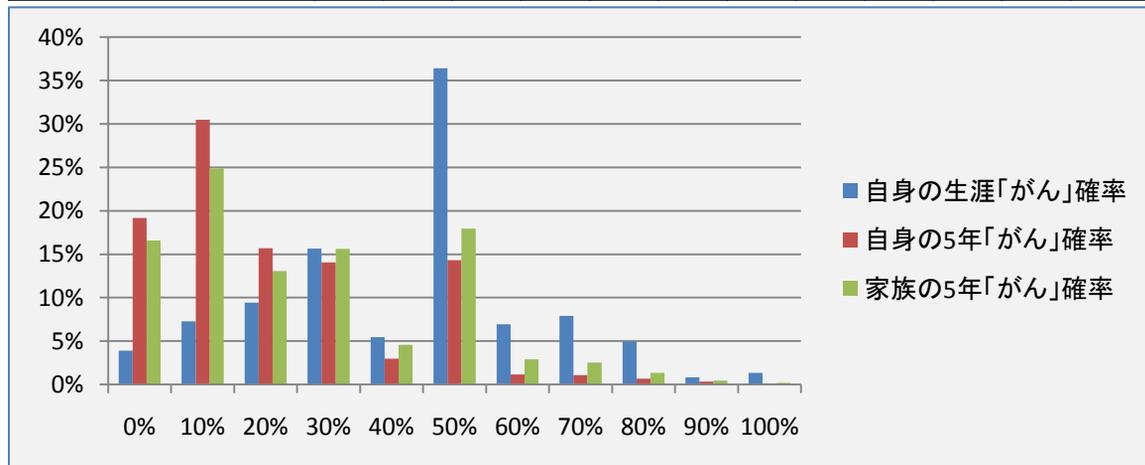
自身の生涯罹患確率では、50%との回答が突出して多い。最近、「2人に1人はがんにかかる」と言われることが多くなっているためだろうか。ただし50%を超える確率で積極的覚悟をする人は少ないために、全体の単純積算（罹患確率x回答者割合の合計）はあまり高くなりず、「近親経験者」で「43%確率」、「未経験者」で「37%確率」、全体平均では「40%確率」という結果になった。

興味深いのは、年代が高まるほど予想確率が低くなることだ。年代が高まるにつれ、周囲の人が罹患する経験は増えるはずだが、確率予想では逆に楽観的傾向を示した。

一方、自身の「5年内」罹患予想は、同様の単純積算でそれぞれ「21%確率」「17%確率」であった。一方、家族の「5年内」罹患は、自身の確率のちょうど5ポイント増しにあたる、「26%確率」「22%確率」であった。

#### ▼近親経験者

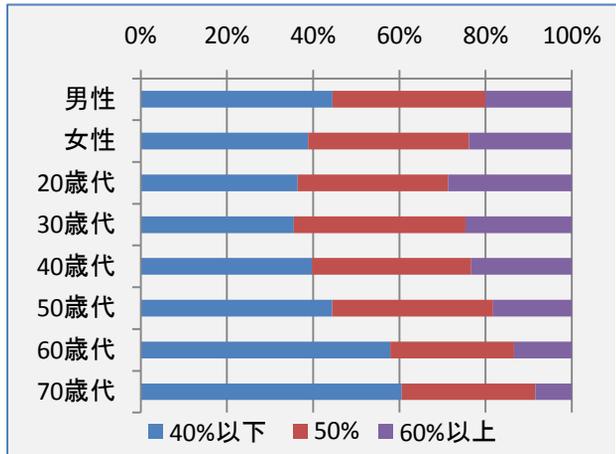
	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	積算
自身の生涯「がん」確率	4%	7%	9%	16%	5%	36%	7%	8%	5%	1%	1%	43%
自身の5年「がん」確率	19%	30%	16%	14%	3%	14%	1%	1%	1%	0%	0%	21%
家族の5年「がん」確率	17%	25%	13%	16%	5%	18%	3%	3%	1%	0%	0%	26%



▼近親経験者(つづき)

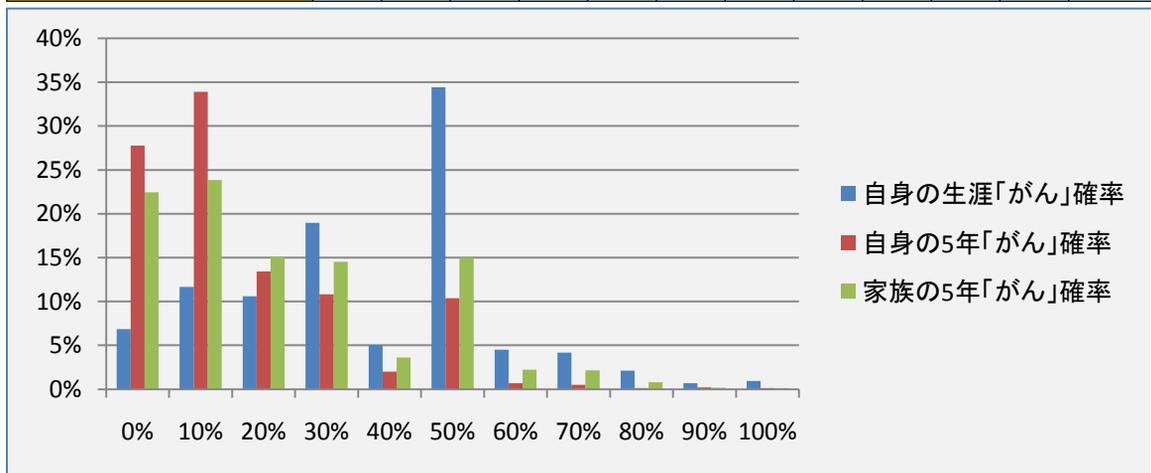
●“自身の生涯「がん」確率”のセグメント別集計

	40%以下	50%	60%以上	計
男性	44%	36%	20%	100%
女性	39%	37%	24%	100%
10歳代	45%	36%	18%	100%
20歳代	36%	35%	29%	100%
30歳代	35%	40%	25%	100%
40歳代	40%	37%	23%	100%
50歳代	44%	37%	18%	100%
60歳代	58%	29%	13%	100%
70歳代	61%	31%	8%	100%
80歳代	50%	50%	0%	100%
90歳代	-	-	-	-
合計	42%	36%	22%	100%



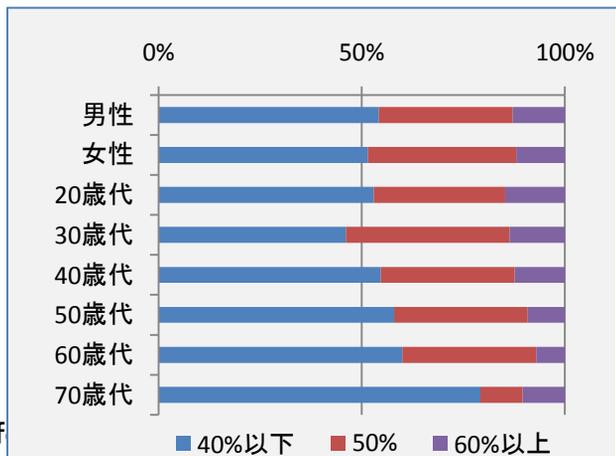
▼未経験者

	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	積算
自身の生涯「がん」確率	7%	12%	11%	19%	5%	34%	5%	4%	2%	1%	1%	37%
自身の5年「がん」確率	28%	34%	13%	11%	2%	10%	1%	1%	0%	0%	0%	17%
家族の5年「がん」確率	22%	24%	15%	15%	4%	15%	2%	2%	1%	0%	0%	22%



●“自身の生涯「がん」確率”のセグメント別集計

	40%以下	50%	60%以上	計
男性	54%	33%	13%	100%
女性	51%	37%	12%	100%
10歳代	60%	24%	16%	100%
20歳代	53%	32%	15%	100%
30歳代	46%	40%	14%	100%
40歳代	55%	33%	12%	100%
50歳代	58%	33%	9%	100%
60歳代	60%	33%	7%	100%
70歳代	79%	10%	10%	100%
80歳代	0%	0%	100%	100%
90歳代	-	-	-	-
合計	53%	34%	12%	100%

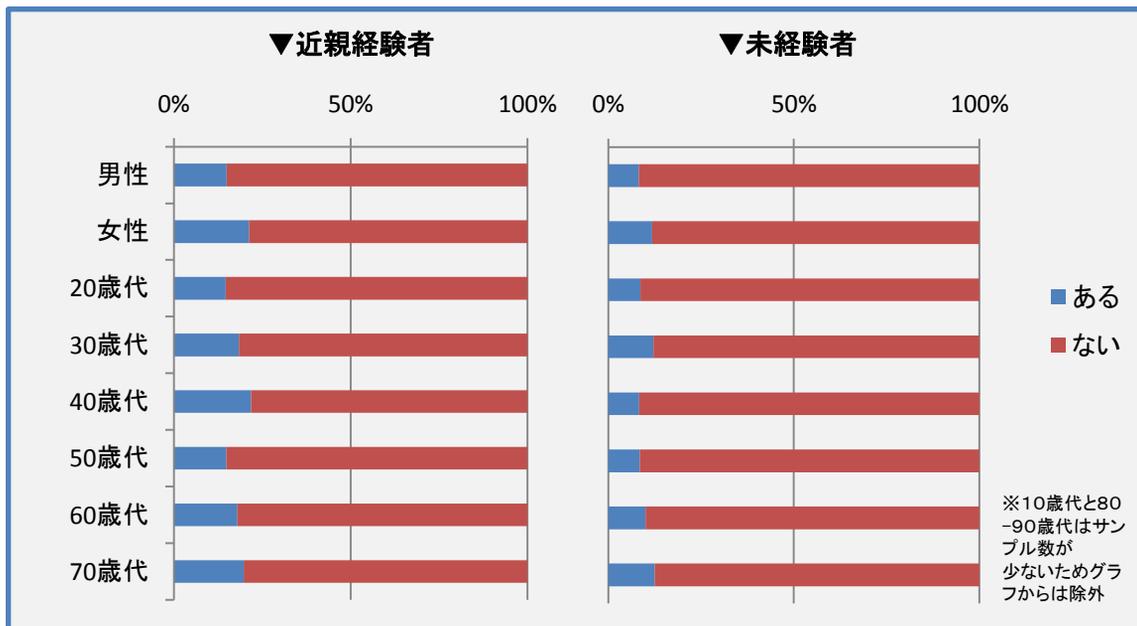


## 2. これまでに、がんや他の大きな病気にかかった時のことを想定して、誰かに、対策を具体的に相談したことはありますか。

がん相当の病気にかかった時のことを誰かに相談したことがあるかを尋ねたところ、「近親経験者」の18%は「ある」と回答したが、「未経験者」では10%に下がった。やはり近親者での経験の有無で、リアリティを感じる度合が異なるのであろう。

なお、どちらのグループでも、女性の方が男性の1.5倍くらい多かった。年代による差はほとんど出なかった。

	近親経験者			未経験者		
	ある	ない	計	ある	ない	計
男性	15%	85%	100%	8%	92%	100%
女性	21%	79%	100%	12%	88%	100%
10歳代	18%	82%	100%	0%	100%	100%
20歳代	15%	85%	100%	9%	91%	100%
30歳代	18%	82%	100%	12%	88%	100%
40歳代	22%	78%	100%	8%	92%	100%
50歳代	15%	85%	100%	9%	91%	100%
60歳代	18%	82%	100%	10%	90%	100%
70歳代	20%	80%	100%	13%	88%	100%
80歳代	50%	50%	100%	50%	50%	100%
90歳代	-	-	-	-	-	-
合計	18%	82%	100%	10%	90%	100%



---

本調査に関するお問い合わせ先:

株式会社QLife 広報担当

TEL : 03-5433-3161 / E-mail : [info@qlife.co.jp](mailto:info@qlife.co.jp)

<株式会社QLifeの会社概要>

会社名 : 株式会社QLife(キューライフ)

所在地 : 〒154-0004 東京都世田谷区太子堂2-7-2 リングリングビルA棟6F

代表者 : 代表取締役 山内善行

設立日 : 2006年(平成18年)11月17日

事業内容 : 健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業

企業理念 : 生活者と医療機関の距離を縮める

サイト理念 : 感動をシェアしよう!

URL : <http://www.qlife.co.jp/>

---